

# 連載 講座

## 地域防災実戦ノウハウ(10) —地震災害に効果的に対応する(その8)—

財団法人消防科学総合センター  
調査研究課長 日野宗門

前2回の講座では危機管理上特に重要となる「初動期」の活動に焦点を当てたが、それでは「初動期」以降の時期はどのように区分され、どのような活動が求められることになるのであろうか？  
今回及び次回ではこの問題について考察することにしよう。

### 1. 地震時の時期区分

地震時の時期区分には色々な考え方があるが、阪神・淡路大震災規模の地震災害を念頭に置いた場合、以下の考え方により区分することも可能であろう。

#### (1) 初動期(発震～2,3時間)

前2回の講座で述べたとおり、人的被害の防止・軽減を主目的に重要な意思決定や体制確立の課題を集中的に処理するとともに、後続の救護活動の準備を整える時期である。

#### (2) 緊急救援期(発震後2,3時間～3日)

生き埋め者等の救出・救命、二次災害の拡大防止活動などの継続とともに、避難者の避難所への収容、避難者・り災者への必要最小限レベルの水・食糧の供給等といった緊急避難的な救援措置が必要となる時期である。また、これらの活動を支援する応急復旧事案への対応が必要とされる時期である。

この時期は外部からの応援は部分的には期待されるものの、基本的には域内の防災力による自立(自律)的な対応が求められる時期である。

#### (3) 救援期(4日～7日)

全国的にも本格的な救援体制が確立され、域内においても長期戦に備えたローテーション体制の導入やアウトソーシング(行政機関外部の防災力の積極的活用。例えば民間業者の活用)が徹底されるべき時期であり、それに伴ってり災者に対する本格的な救援活動へ移行することになる。

#### (4) 復旧期(8日～)

(3)の救援活動が継続されるとともに、生活再建支援、事業活動再開支援施策が実施される日寺期である。あわせて、復旧事案への対応が本格化してくる時期でもある。

ただし、ここで示した時期区分の時間的指標とした「発震後の日時」はあくまでも目安であり、

地理的条件, 都市規模などの地域特性によって大きく変化する可能性があることに留意して欲しい。また, 「復旧期」をより長期のスパンで考えれば, 「復旧期」と「復興期」に区分することも必要になってくると考えられる。

## 2. 時期区分と活動内容等の概要(表1)

表1は, 阪神・淡路大震災規模の地震が都市地域で発生した場合を念頭に, 前述の時期区分ごとに, 「災害事象(対策事象)」, 「活動環境」, 「防災力」, 「活動内容」の概要を整理したものである。この表から, 各時期の特徴や活動内容等の概要を把握していただければ幸いである。

なお, 本表は以下の方針に基づき作成したものである。

- ①「災害事象」, 「活動環境」, 「防災力」は, 阪神・淡路大震災の神戸市等の激甚被災地の状況を基本的に反映させる。
- ②「活動内容」については, 阪神・淡路大震災の危機管理上の教訓(状況あと追いついた活動に終始した)を踏まえ, 状況先取的な活動が可能となるよう配置する。阪神・淡路大震災時の応急対策活動状況に詳しい読者諸氏は, 実際に観測された同種の活動に比して早い立ち上げとなっていることに気づかれるであろう。

なお, 「活動内容」には, 阪神・淡路大震災では実施されなかったが, 重要と思われる活動内容を追加している。

以上の予備的検討を前提に, 次回では緊急救援期, 救援期, 復旧期に必要とされる活動とその留意点について詳しく考察することにしよう。

表1 時区分と活動内容等の概要(その1)

時区分	災害事象(対策事象)	活動環境	防災力	活動内容
<p>発震後2、3時間 (初期)</p>	<p>災害現場多数 ・死傷者多数 ・避難者の発生 ・火災等の発生 ・防炎基準施設被災 ・安否電話が殺到</p>	<p>・道路不通箇所多数 ・電話不通、不通に及ぶ ・停電エリアが広範囲に発生 ・ガスの供給自動停止、小規模ガス漏れ ・断水箇所(消火栓使用不能箇所)広範囲に及ぶ</p>	<p>・職員参集(動員)、ただし少数 ・地域での住民の自主的対応 ・事業者での自主的対応</p> <p>・自衛隊派遣要請、広域応援要請</p>	<p>・初動体制の確立 ・被害状況の把握 ・重要意思決定(避難の勧告、指示、広域応援要請、自衛隊派遣要請、災害対応策等) ・人命の安全確保 ・全権保護活動(救出等) ・二次災害の防止(土砂災害防止等) ・緊急救援活動(生命維持に必要な最小限の活動)立ち上げ準備 ・避難所開設/食糧、毛布の準備 ・避難所運営管理、物資の在庫管理にバリエーションを指示 ・安否電話の活用を指示 ・安否電話の活用要請、広報等</p>
<p>発震後2、3時間～3日 (緊急救援期)</p>	<p>・要救助現場多数 ・死傷者多数 ・避難者の発生 ・火災等の発生 ・防炎基準施設被災 ・安否電話が殺到 ・緊急救援活動に対する対応が多数</p>	<p>・道路不通箇所多数 ・電話不通、不通に及ぶ ・ガスの供給自動停止、小規模ガス漏れ ・断水箇所(消火栓使用不能箇所)広範囲に及ぶ ・停電エリアが広範囲に発生 ・神戶市で約40% ・3日後水道復旧率 約9割 ・停電エリア徐々に解消 ・3日後電力復旧率 約9割</p>	<p>・市域外居住者(支援要員)が参集 ・被災地警察の応援、自衛隊等が現地へ入り始める ・小救急による支援活動開始(2日目) ・企業による支援活動開始(2日目) ・全国から救護物資運送開始(3日目) ・3日目あたりから現地入りするボランティアが増加、ボランティアの活動開始</p>	<p>・状況の把握 ・人命の確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・安全確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・避難所運営管理、物資の在庫管理にバリエーションを指示 ・安否電話の活用を指示 ・安否電話の活用要請、広報等</p> <p>・状況の把握 ・人命の確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・安全確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・避難所運営管理、物資の在庫管理にバリエーションを指示 ・安否電話の活用を指示 ・安否電話の活用要請、広報等</p>
<p>4日～7日 (救援期)</p>	<p>・災害に対する救援事業多数 ・救援活動への応援者多数 ・安否電話が殺到 ・倒壊家屋解体、倒壊家屋に隣接する窓口に多数 ・被災者に対する救援活動が開始</p>	<p>・要救助者多数 ・死傷者多数 ・避難者の発生 ・火災等の発生 ・防炎基準施設被災 ・安否電話が殺到 ・緊急救援活動に対する対応が多数</p>	<p>・全国的な支援体制が形成される ・ボランティアの参集 ・企業による支援活動本格化</p>	<p>・状況の把握 ・人命の確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・安全確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・避難所運営管理、物資の在庫管理にバリエーションを指示 ・安否電話の活用を指示 ・安否電話の活用要請、広報等</p> <p>・状況の把握 ・人命の確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・安全確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・避難所運営管理、物資の在庫管理にバリエーションを指示 ・安否電話の活用を指示 ・安否電話の活用要請、広報等</p>
<p>8日～ (復旧期)</p>	<p>・災害に対する救援事業多数 ・救援活動への応援者多数 ・安否電話が殺到 ・倒壊家屋解体、倒壊家屋に隣接する窓口に多数 ・被災者に対する救援活動が開始</p>	<p>・要救助者多数 ・死傷者多数 ・避難者の発生 ・火災等の発生 ・防炎基準施設被災 ・安否電話が殺到 ・緊急救援活動に対する対応が多数</p>	<p>・状況の把握 ・人命の確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・安全確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・避難所運営管理、物資の在庫管理にバリエーションを指示 ・安否電話の活用を指示 ・安否電話の活用要請、広報等</p>	<p>・状況の把握 ・人命の確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・安全確保 ・緊急電話の活用要請、広報等 ・避難所運営管理、物資の在庫管理にバリエーションを指示 ・安否電話の活用を指示 ・安否電話の活用要請、広報等</p>

(注)【参考】として示した数字は、阪神・淡路大震災のものである。